



# 済生会ニュース

平成20年1月1日発行 三重県松阪市朝日町一区15番地の6 TEL 0598-51-2626㈹/FAX 0598-51-6557  
<http://www.matsusaka.saiseikai.or.jp>

## 新院長就任にあたって



この度、藤森健而前院長（現三重県済生会業務担当理事・済生会松阪総合病院名誉院長）のご推举により三重県済生会理事会での承認のもと平成20年1月1日付けをもって済生会松阪総合病院院長職を拝命する事になりました。私は昭和63

年4月1日に国立循環器病センターから当院の脳神経外科部長として奉職し、以来19年9ヶ月間、脳神経外科の診療を担当させて頂きました。診療の現場においては、患者さんやご家族に、病状について出来るだけ解り易い説明をするように心掛け、手術に当たっては自分の家族を手術するつもりで臨む事を日ごろより心掛けてきました。このことは単純な事であり、当たり前の事でもありますが、結構時間と労力を必要とする事もあります。その甲斐があったかどうかは判りませんが、近隣の方々からもそれなりに信頼して頂ける脳神経外科に育ってきたと自負しています。もちろん私と一緒に仕事をしてくれた脳神経外科医をはじめ、他科の医師の応援や看護師をはじめとする職員の献身的なサポートの賜物である事も言うまでもありません。

今後は院長という病院全体を代表する立場になる訳ですが、もちろん済生会病院のこれまでに掲げて来た理念は不变でありますが、私が脳神経外科で心掛けてきた気持ちを職員の皆さんとも共有し、今以上に患者さんやご家族に納得のいく医療を提供出来る様に心掛け、地域の皆様から、より信頼していただける病院となる様に努力したいと思います。

済生会という組織は明治天皇が時の桂太郎総理大臣に「庶民のために施薬救療し、済生の道を弘めるように」との済生勅語と共に下賜されたお手元金を基金として創立された組織であり、現在では全国に病院だけで82病院、その他福祉・介護施設をあわせると352施設になる大きな組織となっています。創立時からの基本精神は不变ですが、現在では、医療だけではなく地域の保健・福祉にも貢献する役割を担っております。福祉に関しては、兄弟病院である済生会明和病院がその使命を担っており、当松阪病院の方は急性期医療業務と健診業務によって医療・保健に貢献する使命を担っ

院長 諸岡芳人

ております。医療の面では、今後も医師を始めとして職員一同の教育、研修に力を入れ、職員各人が自主的に研鑽を積み、医療水準を向上させ、高度先進医療を地域の皆さんに提供できる病院でありたいと考えております。また地域中核病院の役割として救急医療への取り組みも重要課題の一つと考えております。しかしマスコミなどでも再三報道されている様に、地方の医師の不足（あるいは偏在）によって、救急医療のパワーの低下が生じて来ている事も事実です。当院においても、県下の病院の中ではまだ良い方とはいえ、十分な医師の確保が出来ているとは言えず、地域の皆様からの救急医療への要望に十分にお応えできない場合も生じてきています。今後、更に医師の確保に努めて、高度先進医療と救急医療で地域に貢献出来るように努力したいと考えております。

健診業務に関しては、平成17年4月に新築したアメニティーに優れた新棟の中の「みえPETがん診断センター」、「健診センター“あさひ”」において、がん健診、人間ドック、専門ドッグ（脳・心臓・乳腺・肝臓）を充実させています。高齢化社会に向けて、がんの早期発見、メタボリックシンドローム対策による心臓病や脳卒中の予防が極めて重要な時代であり、PETセンターと健診センターの重要性はますます高まるものと考えています。更に当院の誇れる分野として、新棟の4階に「ART・生殖医療センター」があります。このセンターは不妊治療という大切な役目を担っており、この中では一般不妊治療から高度生殖医療まで行われており、治療成績は全国的にも非常に高いレベルを誇っています。以上のように、保健の分野においても、高齢化社会や少子化社会に貢献できるようにレベルアップを図って行きたいと思います。

最後に、皆様が済生会病院へ来られた時には、職員の明るい笑顔でお迎えできるような病院でありたいと願っておりますし、そうあらねばならないと思っています。職員が心からの明るい笑顔で皆様に接する事が出来るためには、職員にとっても働きやすい職場で無ければならないと考えております。職員が明るく仕事が出来ないような病院では、良い医療が提供できるはずも無いからであります。患者さんを守り、職員も守れる病院を目指したいと思います。

# 埋没型カテーテル（静脈リザーバー）留置について

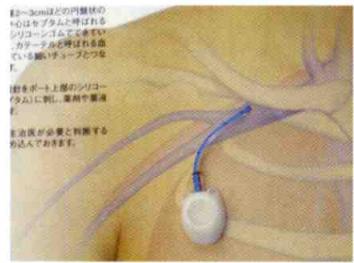
放射線課 寺 田 尚 弘

悪性腫瘍ならびに全身状態不良の患者様においては、採血・点滴のための頻回の静脈穿刺や連日の注射処置（抗癌剤、刺激性薬剤など）に伴う静脈炎や薬剤漏出によって静脈の荒廃をきたし、ルート確保が困難となる場合が少なからず経験されます。このような症例に対し、従来より中心静脈カテーテル留置が施行されてきましたが、カテーテル留置による感染、生活の制限などが問題点として残されていました。その対策として、埋没型カテーテル（静脈リザーバー）留置が近年各施設で施行されるようになってきております。

埋没型カテーテルとは図1の如く、カテーテルと穿刺用の小型ポートから成っており、ポートの大きさは幅が1円玉より少し大きい程度で丈が1cm程度と小さく、皮下に埋没するとほとんどわからなくなります。留置方法は、①右腕前腕部正中～尺側皮静脈を20G外筒付き留置針で穿刺し、約10mlの造影剤を注入して上腕～鎖骨下静脈に血栓や狭窄・閉塞がないことを確認、②右鎖骨下静脈を穿刺しガイドワイヤーを用いてシースを挿入、③その中にカテーテルを通し先端を上大静脈まで挿入し固定、④前胸部側は皮下トンネルを経由して小型ポートと接続し皮下に埋没します。使用方法は、ポート上の皮



膚を消毒後、22G Huber針で穿刺し、血液の逆流が確認できたらシステム内を生理食塩水を通して目的のルートに接続します。リザーバーは埋没直後から使用することができ、1500回の穿刺耐久性が証明されています。抜針に際しては、ヘパリンを含んだ水でカテーテル内の血液が凝固しない様にしています。



当院での使用目的の傾向としては、安全に血管が確保でき、治療期間中でも入浴や洋服の着脱、軽い運動などの日常生活を普段どおりできる点で外来化学療法中の患者様への留置が増加しています。また、数は少ないですが、消化管の吸収障害のある方や経口摂取ができない方にも高カロリー輸液を行うために用いられています。当院では今のところ行っていませんが、自己抜針による在宅化学療法に取り組んでいる施設も報告されています。中心静脈リザーバー留置にかかる所要時間は1時間前後であり、合併症がなければ日帰りでの留置が可能な施術です。在宅医療の推進、地域医療との連携がすすむ今日、ますます活躍の場が増えてくることが予測され、医療現場を中心に広く周知していただくよう努力していかなければならないと思っております。

## おくすり通信

済生会松阪総合病院 薬剤部



★★

今回は、『経腸栄養剤』についてお話しします。

『経腸栄養剤』とは、からだの維持に必要な糖質、蛋白質、脂質、電解質、ビタミンなどをバランスよく配合した栄養剤で、食事が十分にできない患者さんの栄養補給に使われます。

経腸栄養剤と一言でいっても、病態別、組成の違いや、食品、医薬品など、様々な種類にわけられます。

### ●今日は、医薬品の経腸栄養剤を紹介します●

- エレンタール…体内での消化を必要としない消化態栄養剤で、胃腸の消化吸收能が低下した方に使われます。
- エンシュアリキッド、エンシュア H…医薬品の中で一般的な栄養剤で、在宅で栄養管理を続ける方に使われます。
- ラコール…エネルギー効率がよく、脂肪の消化吸收不良がある方に使われたりします。
- ハーモニック F…食物繊維が多く、下痢・便秘など、排便コントロールの必要な方に使われます。
- アミノレバン EN…肝疾患用の栄養剤で、肝性脳症の予防や改善に使われます。

その他、食品に分類されるものは売店でも購入できますので、栄養状態改善に、一度試されてはいかがでしょうか？？



# 済生会松阪総合病院 災害医療活動訓練について

松阪地区広域消防組合 消防本部消防課 三木 淳



平成19年11月10日（土）、済生会松阪総合病院で災害医療活動訓練が行われました。当消防本部も昨年に引き続き訓練に参加させていただきました。今年の訓練想定は、病院近くの国道でマイクロバスと乗用車が正面衝突し、歩行者を含めた30数名の傷病者が発生したという想定のもと実施されました。この訓練の特徴としては、通常であれば消防隊が先に現場到着し初期活動を行うところですが、現場が病院近くということで事故を聞きつけた当直の医師や、看護師の医療チームが現場に駆けつけ、ファーストトリアージや応急処置を行ったものでした。

災害医療現場では、トリアージなどの初期活動は多数傷病者の救命効率を上げるために非常に重要な部分であり、私達も医療チームの活動に注目しました。

藤森院長先生による「訓練開始」が宣言されると、病院前には事故対策救急本部が設置され、ゴーグルや感染防止衣で身を包んだ医療チームが出動し、路上に倒れている傷病者やマイクロバス車内の多数の傷病者を、医療チームリーダーである長沼医師の指示のもと、冷静に手際よくトリアージされた傷病者にトリアージタグが取り付けられました。

その後、到着した救急隊に次々と医師から搬送の指示が出され、設営されたエアーテントに傷病者が搬送されると、さらに詳しく傷病者の重症度、救急度を判断するセカンドトリアージがそれぞれの医師により行われ、緊急治療群（赤タグ）、準救急治療群（黄タグ）に振り分けられた傷病者が次々と病院内へストレッチャーで搬送され、院内の動線によりそれぞれの処置室へとスムーズに流れていきました。



また、もう一つの注目すべき医療活動はCSM(confined space medicine)「がれきの下の医療」で、マイクロバスの運転席に挟まれ、救出に時間を要する重症の傷病者に、長沼医師や看護師が救命処置を施しながら



救助隊と連携して救出する場面でした。

救急処置室と違い事故車両内の狭いスペースで、処置のしづらい姿勢から気管挿管や輸液も見事に施され、また救出時には救助隊に、傷病者の負傷部位に配慮した指示も細部にわたり行われて見事なCSM活動を見ました。

普段の救助現場でもこうした救出活動に時間要するケースが多くあり、このような医療チームが現場に来ていただければ・・・と私なりに勝手な思いを抱いてしまいました。

私達も日々あらゆる事故を想定した訓練を行っていますが、ほとんどが消防だけの訓練であり、医療機関と連携したこのような集団災害的な訓練の機会が少なく、この訓練に参加させていただいたことは大変有意義でした。

ひとたび災害が起きれば医療機関と消防の連携は欠かすことのできないものであり、そのためにも普段からこうした訓練を繰り返すことが大切です。

今回の訓練を通じて、医療スタッフの方々はもちろんのこと、負傷者役や家族役などに参加された職員一人ひとりが危機感をもって真剣に訓練に取り組まれている姿から、済生会松阪総合病院が医療活動に取り組まれている強固な組織力や災害に対する関心の高さを感じました。

これからもこうした訓練にぜひ消防も参加させていただき、医療機関と消防が一体となって、災害活動ができる体制を築いていただきたいと思います。

最後にこの訓練の計画と準備にご尽力されましたスタッフの皆様方、大変お疲れ様でした。



10周年おめでとうございます



平成10年4月の発足より10年を迎えることになったボランティアグループ「なでしこ」の皆様です。毎朝エントランスホールにてトレードマークのピンクのエプロンを着て、元気に明るく活動して頂いております。

去る11月19日、病院より10周年

年の感謝の気持ちを込めて、記念品を贈呈いたしました。

病院職員の配慮が届かないところへの気配りをしてくださるボランティアの皆様に感謝いたします。今後もボランティアの皆様の活躍に期待しております。



医療相談室 森田 久美子

## ■ 外来診療担当表

(2008年1月1日)

★担当医は変更になることもあります。

●受付時間 8:00~12:00 (診療科と曜日によって多少変更あります)  
●休診日 土・日曜日、祝祭日、年末年始(12/30~1/3)、創立記念日(5/30)

	月	火	水	木	金
内 科	一診				
	二診	須川 正宏	南川 光三	垂見 敏明	須川 正宏
	三診	保田憲基 (午後) (予約のみ)	小林 稔彦	脇田 喜弘	小林 稔彦
	四診	森谷 熊	森谷 熊	井口 正士	井口 正士
	五診	清水 敦哉	上村 泰弘	上村 泰弘	中島 啓吾
	六診	垣本 齊		田中 淳子	坂井 正孝
	七診	中島 啓吾	清水 敦哉	中島 啓吾	脇田 喜弘
	八診	坂井 正孝	垂見 敏明	垣本 齊	保田 憲基
外 科	一診	藤森 健而	長沼 達史	藤森 健而	田中 穢
	二診	田中 穢	飯澤祐介 (第1・3・5火曜) 柏倉由実 (第2・4火曜)	柏倉 由実	飯澤 祐介
	午後		外科医師 (肛門・乳腺)		外科医師 (乳腺)
脳 神 經 外 科	一診	諸岡 芳人	諸岡 芳人		諸岡 芳人
	二診	村田 浩人	清水 重利	村田 浩人	佐藤 裕
整形外科	一診	今原 敏博	整形外科医師	今原 敏博	今原 敏博
	二診	竹上 謙次	森本 政司	森本 政司	森本 政司
	三診	植村 剛	竹上 謙次	高北 久嗣	植村 剛
	午後			乳児検診 (要予約)	竹上謙次 (腰痛外来) (要予約・紹介のみ)
産婦人科	午 前	高倉 哲司	紀之本将史	高倉 哲司	菅谷 健
	二診	竹内 茂人	高倉 哲司	紀之本将史	紀之本将史
	三診				竹内 茂人
	午 後 <small>紹介予約のみ</small>		手術	高倉 哲司	
	一診				手術
	二診				手術
ART ・ 生 殖 医 療 セ ン タ ー  (完全予約制)	午 前	菅谷 健	菅谷 健	菅谷 健	菅谷 健
	二診再診	竹内 茂人	竹内 茂人	竹内 茂人	竹内 茂人
	二診再診				
	一診新患	菅谷 健		菅谷 健	
	二診新患	竹内 茂人		竹内 茂人	手術
	夕 診	菅谷 健		菅谷 健	菅谷 健
小 兒 科	午 前	菅谷 健	菅谷 健	菅谷 健	菅谷 健
	午 後		菅谷 健		
			予防接種	乳児検診	乳児検診
眼 科	一診	宮村 昌孝	交代	宮村 昌孝	宮村 昌孝
	二診	江崎 弘治		江崎 弘治	江崎 弘治
	三診				
皮膚科		垂水 千早	垂水 千早	近藤 誠	垂水 千早
耳鼻咽喉科		大学医師			大学医師
泌尿器科	一診	森 健	小川 和彦	森 健	柳川 真
	二診(新患)	小川 和彦	柳川 真	金原 弘幸	金原 弘幸
神経内科		坂井 利行	近藤 昌秀	坂井 利行	坂井 利行
麻酔科		宮村とよ子	宮村とよ子	宮村とよ子	宮村とよ子
放射線科	寺田 尚弘	野本 由人	加藤 幹愛	中川 俊男	野本 由人
	村田知恵子				
口腔外科	佐藤 耕一	佐藤 耕一	佐藤 耕一	佐藤 耕一	佐藤 耕一
	朴 一根	朴 一根	朴 一根	朴 一根	朴 一根